

|            |                                              |            |       |          |      |
|------------|----------------------------------------------|------------|-------|----------|------|
| 3-4        |                                              |            |       |          |      |
| 主 題        | 社会福祉法人の運営するデイサービスが<br>地域に根付いた身近な施設になる為のニーズ調査 |            |       |          |      |
| 副 題        | みんなの居場所になるために                                |            |       |          |      |
| キーワード<br>1 | 地域貢献                                         | キーワード<br>2 | ニーズ調査 | 研究(実践)期間 | 8 ヶ月 |

|           |                              |
|-----------|------------------------------|
| 法人名・事業所名  | 社福) フロンティア 高齢者在宅サービスセンター山吹の里 |
| 発表者(職種)   | 尾川次郎(生活相談員)                  |
| 共同研究(実践)者 | 齊藤利理子(介護職員)、岡浦江津子(介護職員)      |

|     |              |       |              |
|-----|--------------|-------|--------------|
| 電 話 | 03-3981-5067 | F A X | 03-3981-5061 |
|-----|--------------|-------|--------------|

|       |                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業所紹介 | 平成元年開設。特別養護老人ホーム(82 床+短期入所8床)の併設型デイサービス。定員 一般型 35 名・認知症対応型 12 名。<br>豊島区からの委託を受け、本年 4 月より豊島区立高田介護予防センターの運営をしている。 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

社会福祉法人フロンティアは、以前から地域貢献活動を進めてきた。

山吹の里では、本年 4 月から豊島区より区立高田介護予防センターの運営委託を受け、地域の介護予防の拠点として事業をスタートした。しかし、デイサービスセンターに於いては、利用者やその家族へのサービスに留まっている現実がある。地域に根付いた身近な施設になるために、地域住民がどのようなサービスを期待しているのかを知る必要があると考えた。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

- ・デイサービスの職員として地域貢献にどう関わることが出来るかを考えることによって自分たちの役割りを再認識できる。
- ・地域住民のニーズを把握することによって、地域の課題が見えてくる。
- ・提供側のアイデアと地域住民のニーズをすり合わせることで、実施可能な活動が見つかる。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

「我がデイサービスで地域に貢献できることは何か」をテーマに、平成 28 年 10 月に職員アンケートを実施。それぞれの職員が、提供したいと思うサービスのアイデアを出し合った。そこで出たアイデアが、地域住民に必要とされるものかを知る為に、アンケートを実施した。対象は豊島区高田地域の町内会・区民センター・地域包括支援センター・近隣企業の協力を得て、20 歳以上の男女 300 人。回収率 58%  
設問ごとに年代別で集計し、どのようなサービスに関心があり、又、利用したいかを調査した。近隣の大手企業 4 社には、企業としてのニーズに関する項目も設問に加えた。

#### 《4. 取り組みの結果》

人的サービスとしては、地域活動としての人手というよりは、専門職の知識を得たいというニーズが高かった。

物的サービスとしては、場所の使用と備品貸し出しのニーズが高かった。特殊浴槽の貸し出しについては、障害を持って生活するというイメージが出来ないのではないかと思える結果になった。

環境的サービスとしては、親の帰りが遅い・長時間の留守番（夏休み等）・夕食を独りで摂る、などの子どもの居場所としてのニーズが高かった。

地域住民が最も必要だと感じているのは、食生活に関することで、小学生や独り暮らしの高齢者への食事提供にニーズが集まった。

近隣企業は商品開発に於いて、高齢者の意見を無視できない時代であるため、情報提供・モニター協力のニーズが高かった。

その他、自由記載に、世代間交流を希望する子育て世代の声が多くあがった。

#### 《5. 考察、まとめ》

人的サービスの提供は、アンケート調査終了後すぐに行える活動であったため、すでに地域に情報提供を行い、要望に応じている。山吹の里周辺地域におけるデイサービス職員の役割の一つが明確になった。

物的サービスの提供は、社会福祉法人の施設が、地域の社会資源であることを発信し、備品貸与の準備があることを知ってもらう取り組みが必要だと感じた。提供側のアイデアと地域住民のニーズをすり合わせる前に、お互いを知ることの重要性に気付くことができた。

子どもの居場所としての環境提供は、食事提供も含め、今後子育て支援の一環として、取り組むべき活動であると感じた。しかし、これまで事業所として保護者なしでの子どもの受け入をしたことがなく、事前に充分なリスクマネジメントを行う必要があると考える。

高齢者と子どもの孤食化が社会問題となっているが、今回の調査でも高い関心がみられ、社会福祉法人が地域貢献活動として取り組むべき課題であると認識した。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

豊島の統計 平成 28 年度版

介護保険アンケート調査報告 平成 29 年

豊島区子育て支援ニーズ調査結果報告書 平成 26 年 3 月

#### 《8. 提案と発信》

デイサービスとして地域を知る活動が、私達を知ってもらう活動になる。

社会福祉法人が運営する地域に根付いた身近な施設になるためには、地域を知るという事がまず初めに必要とされる行動なのではないだろうか。